

ウィズ
with
コロナ時代

介護施設

NOW

なう

未知の新型コロナウイルス感染症[COVID-19]が人類を脅かし、新しい生活様式が提唱される現在。高齢者の暮らしを支える介護の現場はどのようなだろうか？ これまでも季節性インフルエンザやノロウイルスなどの感染対策を講じてきたが、コロナ禍で変わったこと、変わらずにいることを、奈良近郊の介護従事者にインタビューしてきた。



グループホーム

月1回発行の『グループホーム メビウスまほろば通信』

「笑顔が増えた」
「表情豊かになった」と、家族から喜びの声

バイタル測定など日常の健康管理の下に、入居者の自己選択を尊重しながら、できないことへの援助を行い、役割・仕事（できること）の提供で主体性を引き出し、日々を楽しく送ってもらう介護サービスを職員がチームで行っています。

**母体の西の京病院
（医療法人 康仁会）の**



居室に掃除機をかける
利用者さん

医療バックアップは、利用者だけでなく職員への安心感にもつながります。高齢者施設・機関の法人グループで連携し、情報共有を図り、リハビリテーションやレクリエーションなども含めて、より質の高い暮らしの提供を心がけています。

コロナ禍の現在は、直接の面会もできずリモートですが、『メビウスまほろば通信』を毎月発行・郵送するなど、ご家族さまへホーム生活の様子をお伝えしています。

メビウス
まほろば



介護職20年のベテラン、ホーム長の曾束和光さん

西の京病院のバックアップ体制と
高齢者施設グループ&
チーム連携の介護サービス